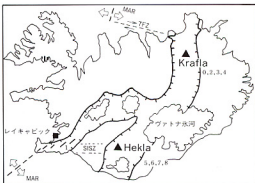




1. (上) Thingvallavatn湖付近から北を望む。この湖はリフトゾーン中央のグラーベンにあり、完新世の溶岩とより若い正断層が目立つ。遠方は氷河におおわれたスキャルドブレイズル(Skjaldbreidur)盾状火山(標高1060m)。
2. (下) 1984年のKrafla火山の噴火で見られた玄武岩質溶岩の噴泉。



3. (上) 1975-1984年のKrafla火山の活動で、Krafla地熱発電所が火山ガスによる被害を受け、以来2つあったうちのひとつ30MWのタービンのみが稼働している。1977年には地熱井のひとつから2-3時間にわたって溶岩(灼熱したスコリア)が噴出するという珍しい現象が見られた。



KraflaおよびHekla火山の位置。TFZ: Tjornes fracture zone, SISZ: South Iceland seismic zone, MAR: Mid-Atlantic ridge (大西洋中央海嶺=レイキヤネス海嶺)。図中の番号は写真の番号に対応。0は表紙。

4. (左) Kraflaカルデラ中央から東方にKrafla山を見る。前景にみられる沸騰している泥の池(表面の気泡に注目)は、ハイアロクラスタイト・リッジ(Leirhnukur)の中にある噴気帯の一部で、池の向こう側にはリッジが露出している。Krafla山腹には、1723-1729年のリフティング期の噴火で出来た爆裂火口(Viti=アイスランド語で地獄の意)が見られる。

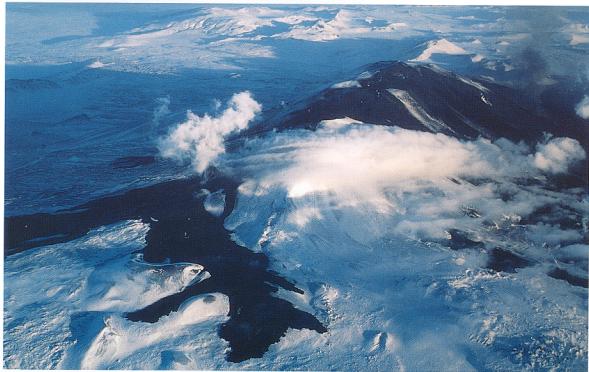


7. (上)ヘクラ火山の火山灰層、白色部は流紋岩質。



5. (左上)北西からみたヘクラ(Hekla)火山、この火山は高さ1500m、延長10kmに達するリッジをなす。1104年の噴火ではいくつかの農耕地を完全に破壊した。

6. (左)1980年ヘクラ火山の安山岩質溶岩、中央は捕獲岩。



8. 今年(1991年)1月のヘクラ火山の噴火、噴火は1月17日の午後始った、写真はDr. K. Saemundssonが1月21日上空から撮影したもの、黒色部が山頂から流れ下った溶岩。